



いばらき学校経営研究会 会夏季研修会 8月17日(土)

筑西市で開催された上記研修会に参加しました。私は、茨城県高等学校長協会県西地区会長であるため来賓としての参加でしたが、しっかり研修してきました。全体テーマは「魅力ある学校づくり」ということで、どの学校においても重要なテーマです。全体会・講演会に続いて行われた分科会では、小中学校の様々な取組について研修が行われました。いつもながら、とても参考になりました。

講演会においては、陸前高田市教育委員会教育長の金賢治氏から「今 伝えたいことー東日本大震災を体験してー」という演題でお話しいただきました。震災からの復興を校長として進めるにあたって、音楽教師であった経験を活かし、明るく逞しく生徒と共に歌を歌って乗り越えていく様子は圧巻でした。以下印象に残った言葉を記します。



- 「何のために生きているか」ではなく「何のために生かされているのか」と考えてみるとやるべきことが見えてくる。
- 防災教育は、想定外を想定すること。不発に終わってもいいから勇気を持って災害防止のための行動をとる。
- 「恩返し」ではなく「恩送り」として、もらった恩を伝えていきたい。
- 亡くなった人は「いない」けど「いる」、心の中で存在を感じる事が大切。

最後に「いのちの歌」をピアノで弾き語りして下さいました。ご自身が校長をしていた中学校の合唱「ほらね」もあわせて、心が震えました。命の大切さ、それを守る責任の重さなど、いろいろ考えさせられる講演有り難うございました。

分科会の後には茨城県教育委員会教育長の柴原宏一様より講話を頂きました。「第4次産業革命やAIが教育界にもたらす影響、文部科学省から発出されたSociety5.0と学校 Ver3.0への対応、学校教育におけるコンテンツベースからコンピテンシーベースへの転換」等の内容は、学校経営に欠かせない視点として管理職が率先して取り組まなければならない課題であると改めて思いました。